

小須戸小学校だより

NO.6

令和5年 1月19日(木) 発行



「ドラえものの4次元ポケット」から考える

教 頭 小庄司 一泰

「ドラえもん」と言えば、日本で知らない人はほばいないと思います。

ある授業でドラえもんの道具について子どもたちと話をする機会がありました。「4次元ポケット」から出てくる道具は、どれも問題がすぐ解決できる道具です。「どこでもドア」「タイムマシン」「もしもボックス」など誰しもが憧れる欲しい道具がたくさん出てきます。

ドラえもんの道具は、全部で2000種類ぐらいあります。その中で、今実現できているものが35種類ほどあるそうです。例えば、「いたわりロボット」というロボットは、癒しを与えてくれる動物型のロボットに、「うわさ花し」という情報伝達手段は「twitter」など、ドラえもんの道具が次々に生み出されてきています。

21世紀、情報機器の進化が急激に進み、スマートフォンやタブレットなどは日常に欠かせないものになりました。10年後には、AI がより進化し、自動運転の車や無人のコンビニが珍しくなくなり、空飛ぶ車やドローン宅配も見かけるかもしれません。

小須戸小学校でもタブレットが導入されて3年目になりました。デジタルを利用したカメラ機能やアニメーション、音声入力などは子どもたちに浸透し、学習方法が大きく変わりました。今後は、タブレットが普段使いの文房具になってきたことを踏まえ、デジタルの利点を生かしつつ、アナログのよさも大事にしていきたいと考えています。

小須戸小学校では、『自分で「学び」と「生活」の舵取りができる子ども』を目指しています。それは将来、問題を乗り越えるための「道具」を手に入れるための準備です。

学習や生活を通して身に付けた「知識」「技能」が、自分の「道具」として使えるようになるためには、いろいろなことを考えながら話を聞いたり、表現したり、行動したりすることが大切です。ドラえもんの道具のように、すぐにうまく解決できるとは限りません。「どうしてだろう?」「この場合はどうしたらいいのかな?」など頭の中であれこれ考えてみると、勉強が楽しくなったり、学校生活が豊かになったりします。紙に書き出してみるのもいいかもしれません。すると、もっとたくさんの人・もの・ことが知りたくなります。

今年は「卯」の年です。卯年は、芽を出した植物が成長していき茎や葉が大きくなる時期で、目に見えて大きく成長する年だといわれています。成功も大事ですが、失敗の経験こそ貴重な財産でたくさんのことを吸収できる機会です。

経験値を高めることで、小須戸小の子どもたちのポケットにオリジナルの「道具」が、一つでも二つでも増え、自分らしさを発揮して飛躍する年になることを願っています。